

ChatGPT 4o

共有する

Hi

あなた:

ユニ チャーム.docx

ドキュメント

要約してください。

ChatGPT:

ChatGPT

この資料は、ユニチャーム株式会社の中村翔太氏が「特許・実用新案生成 AI を活用した業務効率化と価値向上への取り組み」について発表した内容を要約しています。

以下に主なポイントを示します:

1. 会社紹介:

- ユニチャームは紙パンツや整理用ナプキンなどを製造販売している企業。
- 2030 年までに世界ナンバー1 を目指し、2024 年度には 1 兆円の売上高に到達予定。
- 海外売上構成比が 60%以上であり、世界中で事業を展開。

2. 特許広報と生成 AI の活用:

- 特許広報は企業活動に不可欠だが、情報量が多く専門知識が必要なため、理解には時間と労力がかかる。
- 課題として「質」「量」「スピード」の制限があるため、生成 AI を活用して特許情報の要約と社内情報発信を自動化。

3. 構築したシステム:

- Google Cloud を活用したシンプルなインフラ構成。
- 特許情報プラットフォーム「J-Plat Pat」から情報を取得し、要約生成ロジックを用いて自動的に要約と資料作成を行う。
- 生成した要約は約 4 分で完了し、社内での資料作成を効率化。

4. 効果と評価:

- 年間 2040 時間の業務効率化を見込み。

- 社員評価ではタイトルや要約部分が特に高評価で、初心者や多角的な視点を提供する点が評価された。

5. **審査員のコメント:**

- 大企業にとって特許情報の活用は非常に実用的であり、次の段階としてシステムの利用率向上や面白さの追求が提案された。
- 特許初心者にとって大きな助けとなる一方で、プロの視点からは改善の余地もあると指摘。

6. **まとめ:**

- 経営層向け資料としても十分な評価を得ており、業務効率化と発信力向上に寄与。

発表全体を通じて、生成 AI の実用性と特許情報活用の重要性が強調されました。もし詳細な点や他の箇所について知りたい場合はお知らせください。

4o

あなた:

構築したシステム:をくわしく

ChatGPT:

ChatGPT

ユニチャーム株式会社が構築したシステムについて、発表内容を詳しく説明します。

1. システム概要

ユニチャームが構築したシステムは、特許情報の要約生成および社内情報発信を効率化することを目的としたものです。このシステムにより、特許情報を迅速かつ簡潔に理解可能な形に加工し、業務効率化を実現しています。

2. インフラ構成

システムは Google Cloud のインフラを活用して構築されています。主な特徴と構成要素は以下の通りです:

- **クラウド基盤:** Google Cloud のサービスを利用し、スケーラブルでシンプルな構成を実現。
 - **Web アプリケーション:** Web アプリケーションの形で構築され、ユーザーが直感的に操作できる仕組み。
 - **クローリング機能:**
 - 特許情報プラットフォーム「J-PlatPat」からクローリング(自動情報収集)を行い、特許情報を取得。
 - 取得した情報をシステム内で加工して利用可能な形にする。
-

3. 要約生成ロジック

要約生成における工夫点として以下のポイントが挙げられます:

- **情報の分割とプロンプト設計:**
 - 特許広報内の各項目を分解し、項目ごとに適切なプロンプトを設計。
 - 必要な情報を的確に抽出するために、情報過多を防ぐ制限も設けている。
 - **簡潔性と過剰生成の防止:**
 - 要約が冗長にならないように、コンパクト化を意識。
 - 重要情報を見逃さずに伝えるため、過剰生成を防ぐ工夫を盛り込んでいる。
-

4. システムの操作手順

システムの利用手順は以下の通りです:

1. **検索条件の設定:**
 - システム画面のナビゲーションから検索条件や要約条件を設定。
 - 特許広報番号を入力するか、手元にある PDF 形式の特許広報をアップロード。
2. **要約生成の開始:**
 - 条件設定後、要約生成プロセスが開始。
 - 処理が進むと、各項目ごとの要約結果がシステム上に表示される。
3. **情報発信資料の生成:**

- 要約された情報は、元データへのリンク(J-PlatPat ページ)や社内用の情報発信資料に反映。
 - この資料は約 4 分で完成し、手動でゼロから作成する手間を省ける。
-

5. 検証と利用の効果

- **迅速性:**
 - 要約生成と資料作成が短時間(4 分程度)で完了。
 - **効率化:**
 - 年間で 2040 時間の業務効率化が見込まれる。
 - 社内での情報共有頻度やリードタイムの短縮にも寄与。
 - **柔軟なカスタマイズ:**
 - 作成された資料は、後からポイント追加や強調修正を加えることが可能。
 - 完全に自動化するだけでなく、人の手を加えて完成度を高められる仕組み。
-

6. 今後の展望

発表内では、以下のような改良ポイントが示唆されています：

- システム利用率の向上を目指すための改善。
- 特許情報の要約だけでなく、読み手を引き付けるデザインや内容設計。
- TEDトークや技術記事のように「読みたくなる」要素を取り入れる。

このシステムは、特許情報の活用を大幅に簡略化し、情報共有を加速する革新的なツールです。必要に応じて、さらなる技術的詳細についても解説可能です。

4o

あなた:

審査員のコメント:をくわしく

ChatGPT:

ChatGPT

審査員からのコメントを発表内容に基づき詳しく解説します。それぞれのコメントからシステムに対する評価や期待される改良点が伺えます。

1. 深津氏のコメント

ポイント

- **特許の活用における課題:**
 - ユニチャームのような大企業では、活用されていない休眠特許が多く存在し、それによる「機会損失」が大きい。
 - こうした「特許の掘り起こし」を支援するツールとして、このシステムは非常に実用的であると評価。
- **次の段階への期待:**
 - 実証実験のフェーズはすでにクリアしており、次は利用者体験の向上が課題。
 - システムの積極的な利用促進や採用率を上げるための工夫が重要。
 - 例えば、「面白さ」や「引き付ける要素」を加えた設計が求められる。
- **具体的な改善案:**
 - システムが生成する要約に、技術記事や TED トーク的な魅力的な要素を追加。
 - 読み手が「読みたくなる」ような工夫を施すことで、社内での普及をさらに加速できる。

総評

このシステムの実用性は非常に高く、改善の余地はあるものの、今後の拡張性に大きな期待が寄せられています。

2. か氏のコメント

ポイント

- **評価基準への疑問:**

- 提示された評価データについて、「どの程度使えるレベルなのか」という具体的な理解を求めた質問。
- 生成された要約やシステムの使い勝手が、どの程度実務に耐えうるのか興味を持っていた。
- **システムの効果についての評価:**
 - 特許情報を扱う初心者にとって、このシステムは大きな助けとなる。
 - 一方で、特許に詳しい専門家にとっては物足りない部分もあるが、「ゼロから作るよりは圧倒的に効率的」という評価を得ている。

総評

初心者から高い評価を得ており、専門家にとっても補助ツールとして有用。ただし、さらなる改善が必要であるとの認識が示されています。

3. 根来氏のコメント

ポイント

- **ユニチャームへの個人的評価:**
 - ユニチャーム製品のファンであり、同社が業界で持つリーダーシップを高く評価。
 - 日本の紙製品業界全体がユニチャームによって品質が底上げされたという点に着目。
- **特許の活用に対する理解:**
 - 消費財メーカーとして、進化を続ける製品には特許が重要な役割を果たしており、その価値を認識している中村氏の取り組みを高く評価。
 - 企業の価値を理解した上で、こうしたシステムを導入する姿勢を賞賛。

総評

ユニチャームの企業姿勢と、それを支える特許情報活用の重要性を再認識。中村氏の取り組みが、企業の価値向上に大きく寄与していると評価されています。

全体的なまとめ

審査員のコメントからは以下のポイントが明確です：

1. **実用性:**

- 休眠特許や未活用特許の掘り起こしツールとしての価値が高い。
- 既にも実証実験を超え、実務への適用が十分可能。

2. **改善の余地:**

- 読み手を引き付ける要素や、利用者体験の向上が次の課題。
- 初心者向けに高い評価を得る一方で、専門家向けには更なる充実が期待される。

3. **ユニチャームの価値観と一致:**

- 特許情報の活用がユニチャームの製品価値向上に直結していることが理解され、非常に高い評価を得ている。

これらのコメントは、システムの強みと改善の方向性を示しており、今後の開発・運用に役立つ具体的な示唆を提供しています。

4o